

「歯と口の健康フェア 2019」の一環として、市民歯科公開講座が 令和元年 6 月 2 日(日) 11:00～12:00 中央公民館(501・502 学習室)において開催されました。

講師は、小屋原町で「ほほえみ矯正歯科クリニック」を開院されている前歯会員の杉山潤一先生です。

演題は【 パパ・ママ ぼくの歯並び大丈夫？ ～タイミングを逃さず始める子供の矯正～ 】です。矯正専門医である杉山先生のご自身の知見や経験、実際の症例の写真などを併せて興味深く非常に有意義な内容のご講演でした。そして、小さいお子様をお持ちの保護者の方々にも興味津々な内容であったかと思えます。それを証拠に、会場には 62 名の参加者を集め、ご家族連れも多く、ほぼ満員の盛況ぶりでした。

講演内容は、昨今ほう蝕罹患率も下がり、小児の口腔疾患の対象はほう蝕以外の問題に推移してきているのではないかと。いわゆる「歯の大きさ」と「顎の大きさ」のアンバランスによる「不正咬合」もその一つである。現代人が以前に比較し「顎」が小さくなってきている傾向にあることは言われて久しいが、「歯」の大きさはどうか。以前の計測データなどから分析してみると、臼歯はわずかではあるが大きくなっていく傾向も感じられる。それはそのまま小さい顎にはなおのこときれいに歯が並ばない、と言う結果になってしまう。

近年、学校歯科健診「歯並び・噛み合わせ」に対する検査項目も追加され、保護者の方の関心も大きくなっていると思えます。実際、〈学童期〉に矯正治療を希望される患者さんが増加している(とのこと)です。

ところが、歯科矯正治療は自費治療であり、矯正科医によって治療方法や治療期間なども少なからず異なる場合もあつたり、世の中のお父さんやお母さんにとってはなかなか敷居が高く、気軽に足を運ぶことは難しいのではないかと、思う思いがします。ですが、そのままの歯並びで良いのか、どうなのか。気になった時には是非来院いただくのが良いのではないかと思っています。(まずは歯科矯正に関する相談を受けに来院してください。相談はどちらの矯正科医でも数千円で済むと思います。) かかりつけの一般歯科医があれば、そちらから矯正科医へご紹介いただいても大丈夫です。

症例の写真提示と解説：矯正治療には「成長発育期出なければできない治療がある」ことを知っていただくため、今回は〈学童期から始める矯正治療〉にターゲットを絞り、学童期と大人との矯正治療の違い・開始時期・使用する装置・治療期間と治療費、について解説。

学童期であるため、頭蓋や下顎の発育発達、口腔内機能の関わりなど大人とは異なる環境における治療。マウスピースやブラケットやワイヤーなど組み合わせたりして治療したり。

矯正治療と一言で言っても、年齢やその子の口腔内の様々な状況など、対応や対策、治療法などは千差万別。ですので、もし保護者の方が、気になったら、おかしいなと思ったり、心配になったら、その時が歯医者(矯正科医でもかかりつけ歯科医でも)さんへ相談に来ていただくタイミングだと思います。今日話を聞いていただいて、「歯並びの大切さ」について親子で考えていただければ幸いです。(とのことでした。)

質疑応答も、特にお母さんからの、子供の歯並びを 3 歳児健診で指摘され心配、歯列不正に対する予防や家庭での対策、などの発言がありました。

(文責 伏嶋陽一)